

2014年度 日経就職ナビ 学生モニター調査結果 (2013年2月発行)

株式会社ディスコ
キャリアリサーチ

2月1日現在の就職活動状況

2014年度
Vol. 3

大学の後期試験と重なる1月は就職活動に割く時間が限られるが、学業の合間を縫って積極的に動く学生も少なくない。2月1日現在の就活モニターの就職活動状況について調査を行い、前年同期調査のデータと比較しながら1月末までの動きを分析した。

1. 2月1日現在のエントリー状況

○一人あたりのエントリー社数の平均は65.3社。前年同期より3社増加

2. セミナー・会社説明会への参加状況

○一人あたりの平均参加社数は36.4社。エントリーと同様に前年同期より微増傾向

3. 選考試験への参加状況

○エントリーシートの平均提出社数は5.7社。前年同期より0.7社増加

○選考試験の平均受験社数は、筆記3.8社、面接2.3社、集団討論2.0社。

いずれも前年同期を上回り、前倒し傾向鮮明

4. 海外での就業意欲

○「海外で働きたい」49.8%。前年調査とほぼ同率

○働いてみたい国・地域は、欧米が人気。「中国」「韓国」は減少

○新卒採用時に企業に評価してもらえらると思うTOEICスコアの平均は725点

5. 理系学生の就職意識

○「自由応募のみで活動」が過半数。「推薦のみで活動」は1.3%にとどまる

○自由応募で活動する理由は、「希望の企業からの推薦枠がない」31.5%、

「推薦で受けても内定がとれるとは限らない」22.6%の順

6. Uターン就職希望状況

○Uターン希望者は3割未満に。減少に拍車

○Uターン就職したくない理由、「就職活動の負担が大きい」が大幅に増加

《調査概要》

調査対象：2014年3月卒業予定の全国の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）

回答数：1,459人（文系男子505人、文系女子401人、理系男子387人、理系女子166人）

調査方法：インターネット調査法

調査期間：2013年2月1日～6日

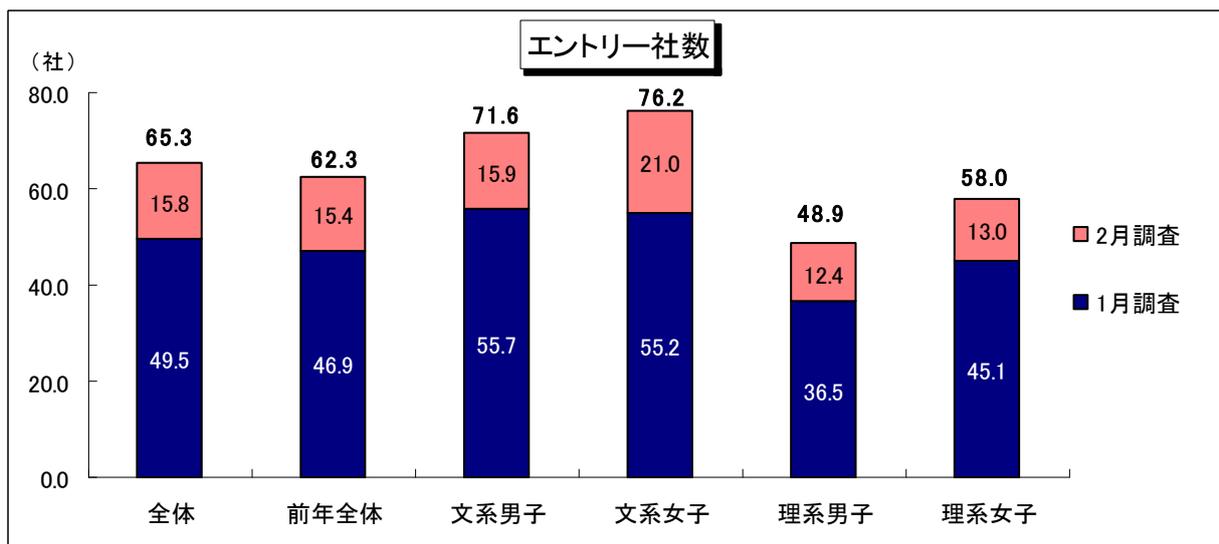
サンプリング：日経就職ナビ2014就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

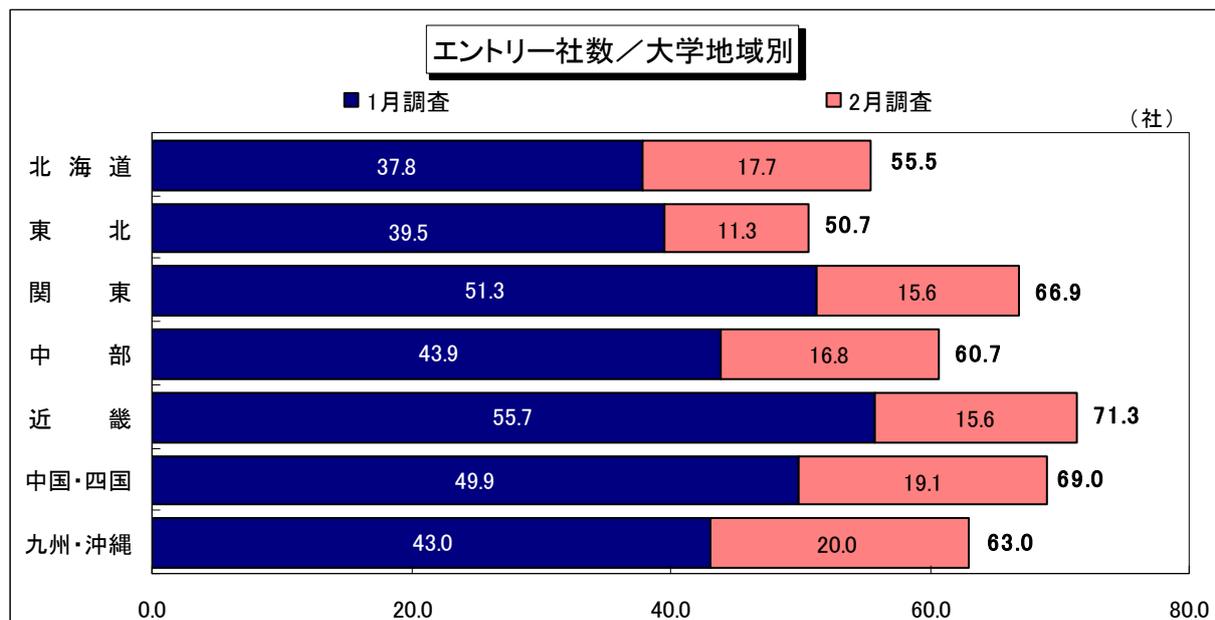
1. 2月1日現在のエントリー状況

2月1日現在、企業への平均エントリー社数は65.3社と、前年同期調査（62.3社）より3社多かった。1月調査に引き続き、対前年微増で推移している。1月調査では49.5社だったので、この1カ月間で15.8社増えた。参考までに前年度モニターの最終的なエントリー社数は89.1社だったので（2012年7月調査）、今期も同程度の社数まで行くとすると、現状で7割程度のペースということになる。



エントリー社数の内訳／平均

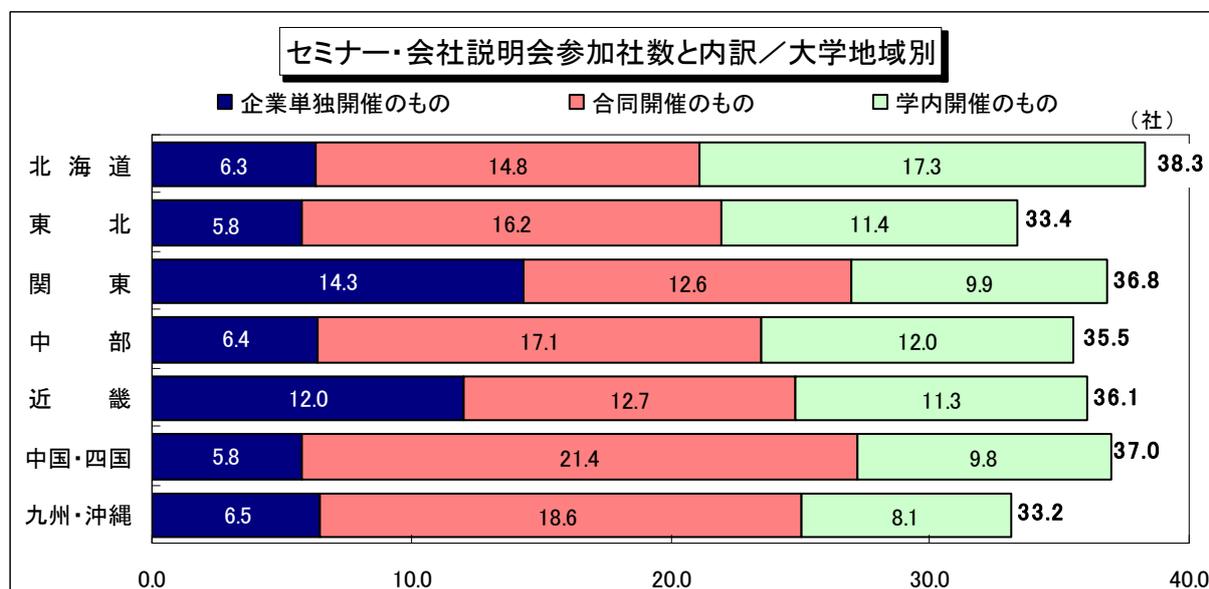
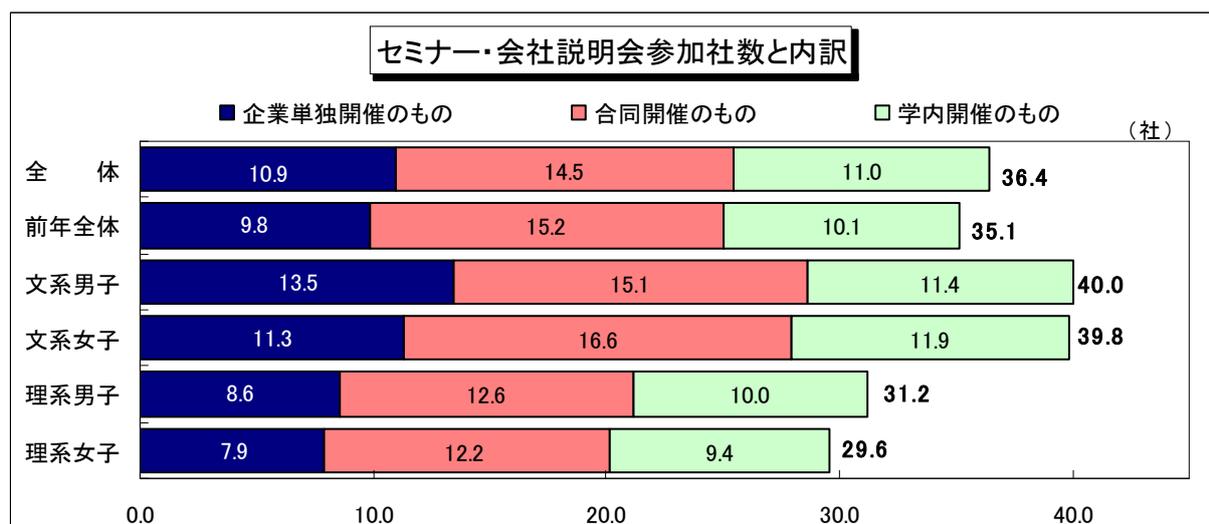
	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職情報サイト経由でのエントリー／平均	48.8	51.2	58.4	36.7	47.4
企業ホームページからのエントリー／平均	15.5	18.6	17.2	11.7	10.9
その他のルートでのエントリー／平均	1.0	1.3	0.8	0.9	0.5



3. セミナー・会社説明会への参加状況

セミナー・会社説明会への平均参加社数は36.4社で、前年同期より1.3社の微増。1月調査に引き続き前年同期をやや上回るペースで参加している。

企業単独セミナーは地域によっての差も依然大きく、「関東」「近畿」といった大都市圏は14.3社、12.0社と10社を超えているが、他の地域はその半数の5~6社にとどまる。地方学生は情報収集の面で地理的に不利な条件を強いられている。



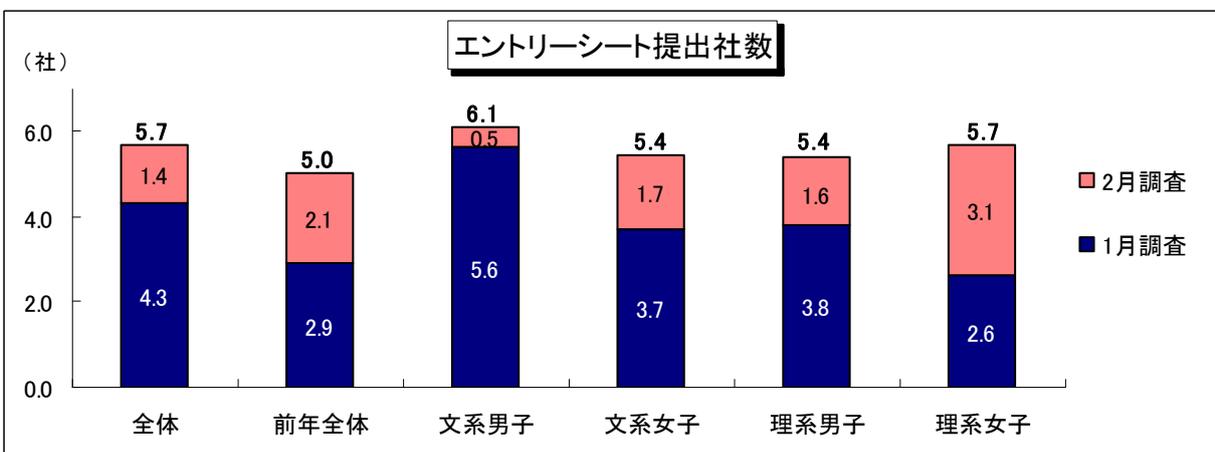
4. 選考試験への参加状況

企業にエントリーシートを提出した人は全体で 80.2%。先月調査 (32.2%) から一気に 48 ポイントも増えた。前年同期調査の 73.2%に比べても 7ポイント多く、企業側のエントリーシート受付が早期化している様子がうかがえる。提出社数を見ると平均 5.7 社と前年 (5.0 社) を上回っているものの、1 月調査からの伸びは 1.4 社とやや鈍い。ただ、学生に人気の有力企業では初回締め切りを 2 月下旬に設定するケースが多く、3 月調査では大きく伸びる可能性がある。

一方、選考試験の受験経験者も前年同期を上回り、筆記試験は 7 割以上が受験している。一人あたりの受験社数を見ると、どの形式も前年同期を上回る水準で、企業の前倒しを裏付ける。なおセミナー参加社数同様に地域差が目立ち、地方学生は大都市圏の学生より受験社数が少ない。

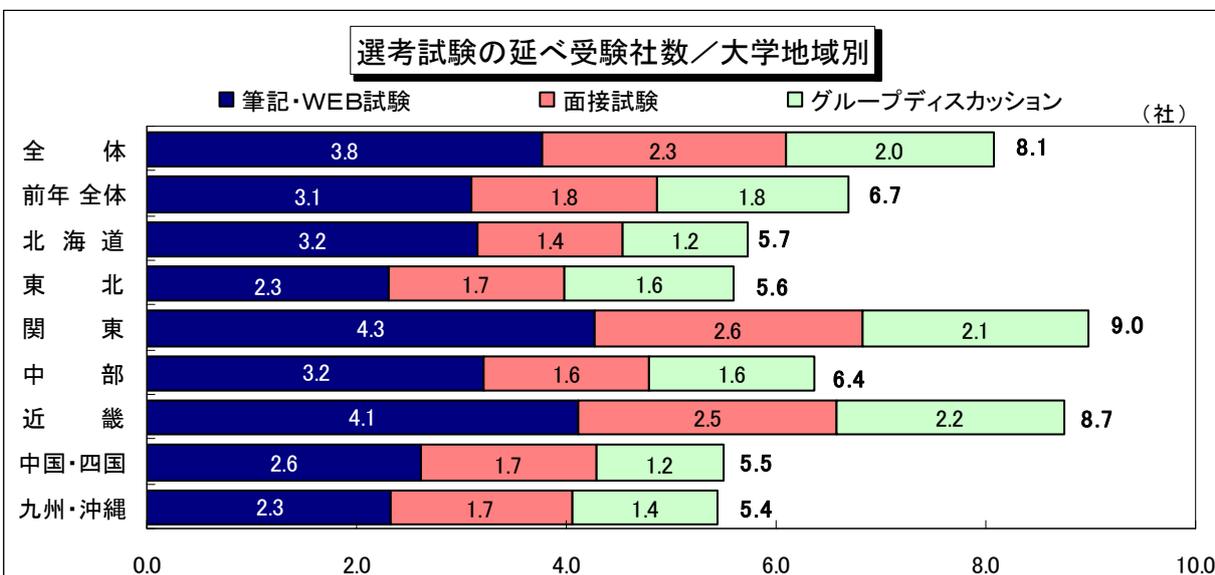
エントリーシート提出の有無

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
提出した	80.2	73.2	82.8	82.0	74.7	80.7
提出していない	19.8	26.8	17.2	18.0	25.3	19.3



選考試験の受験状況

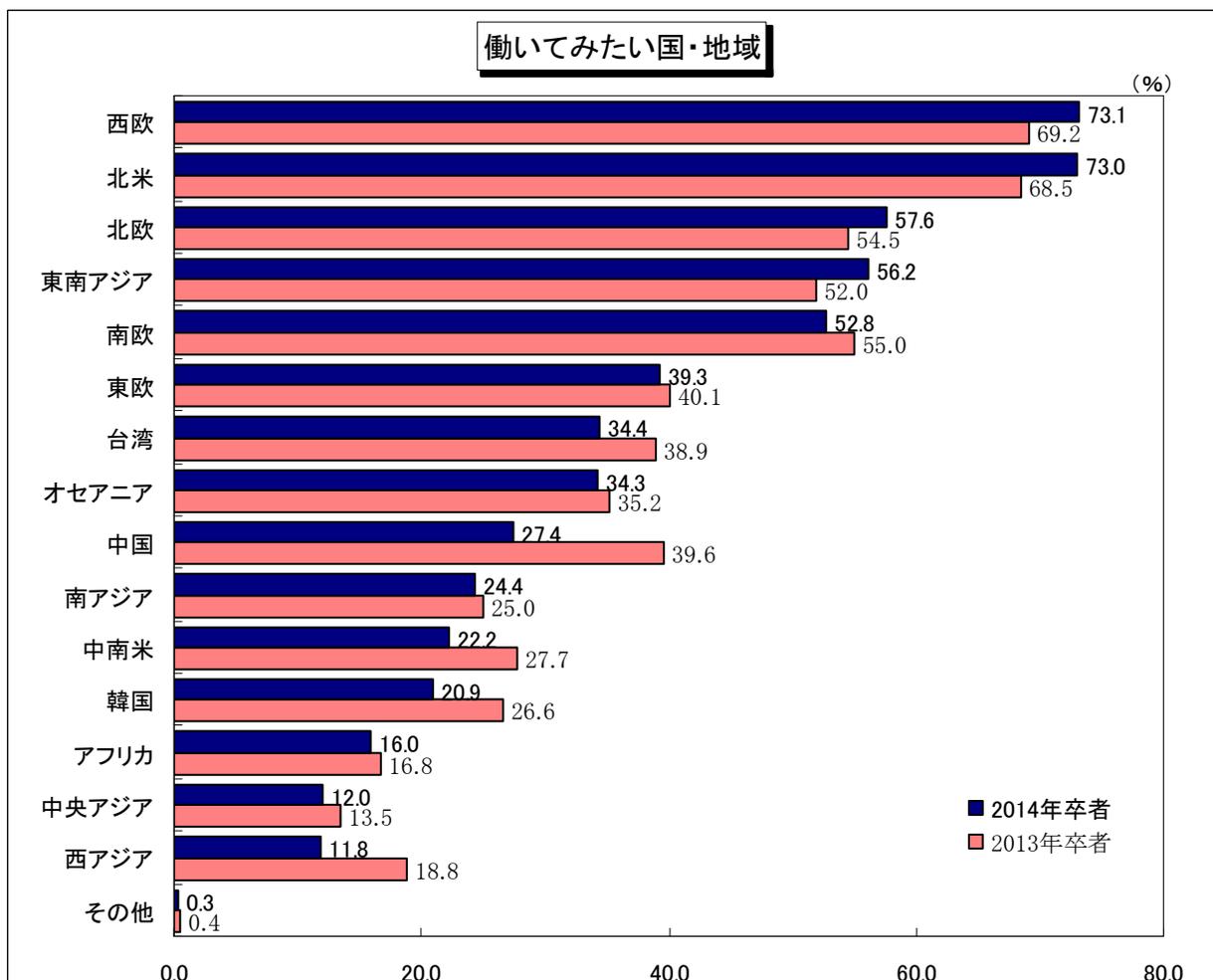
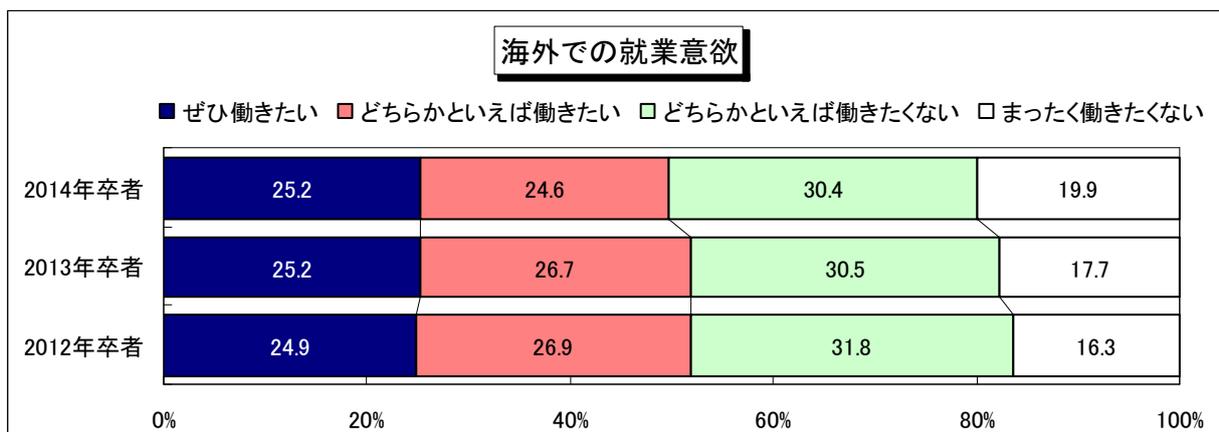
	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験を受験した	73.5	66.6	73.5	75.8	71.1	74.1
面接試験を受験した	33.6	28.8	37.4	34.9	28.9	29.5
グループディスカッションを受験した	30.1	25.5	37.0	30.7	22.0	26.5



5. 海外での就業意欲

海外での就業意欲の高さを聞いてみたところ、「ぜひ働きたい」「どちらかといえば働きたい」の合計は49.8%と、前年度調査（51.9%）とほぼ同程度で、約半数だった。新卒マーケットにおいて「グローバル」というキーワードが飛び交って久しいが、学生側の海外勤務意向に大きな変化は見られない。

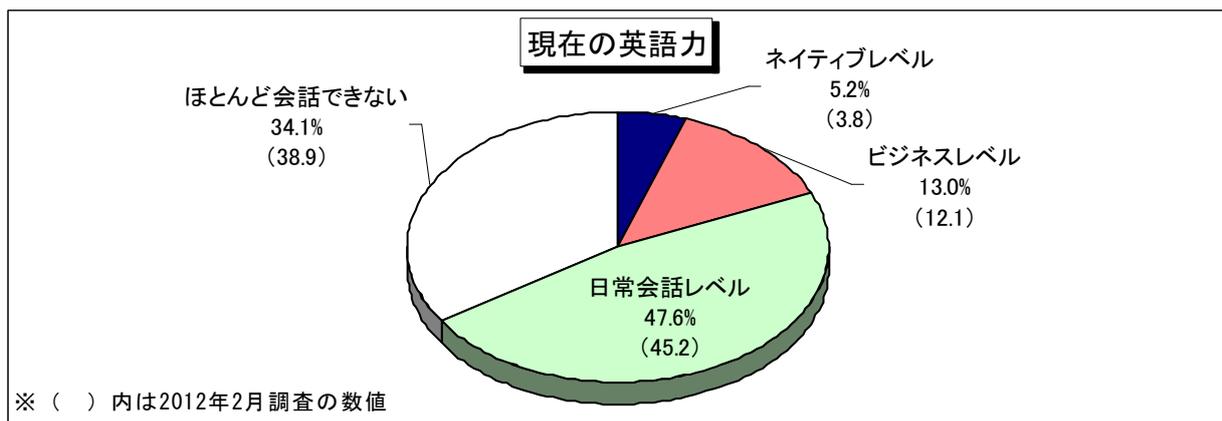
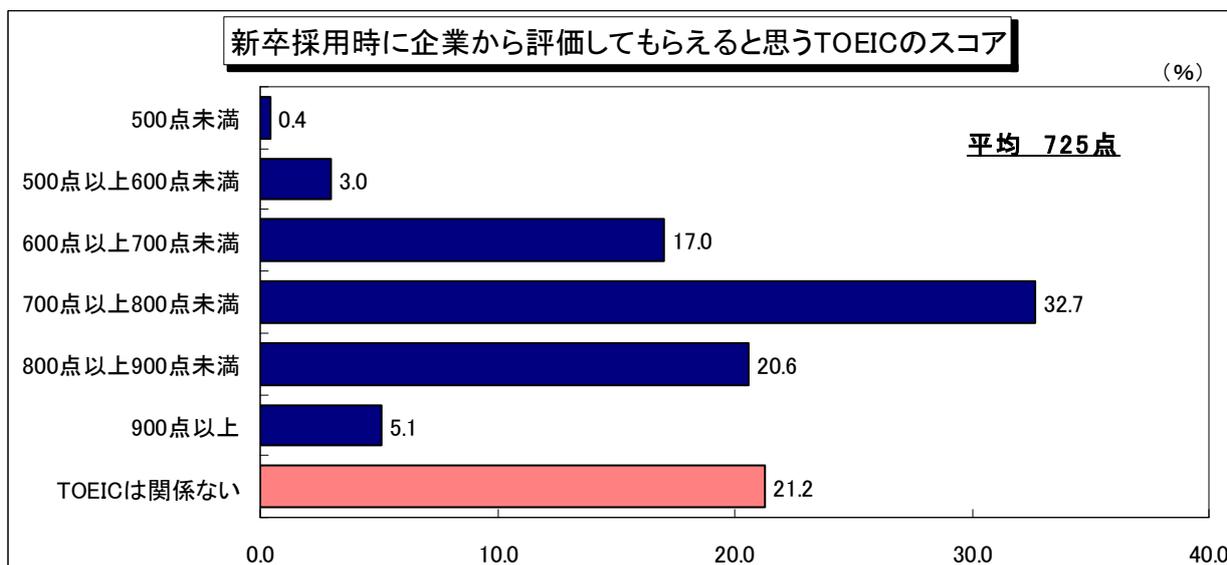
さて、働いてみたい国・地域に大きく変化が見られ、北米、西欧、北欧などの欧米がポイント上げた一方、中国が12ポイント以上も下がった。環境汚染や外交問題などが影響していると見られる。韓国も数字を下げた。



今回初めて、新卒採用時に企業から評価してもらえらると思う TOEIC のスコアを聞いたところ、平均は 725 点だった。TOEIC における「ビジネスレベル」の入り口は 730 点であるが、それに近い数字が得られ、学生自身も一つの目安としている様子が推測できる。ボリュームゾーンも「700 点以上 800 点未満」で、3 割強がここに集中している。

ただ、実際の英語力を問うと「ほとんど会話できない (470 点未満相当)」が 3 割以上にのぼり、乖離が見られる。

海外経験の有無を聞いたところ、「海外に行ったことはない」との回答が前年調査より微減し、「海外旅行」「語学研修」「その他海外研修 (学術目的など)」といった海外経験がそれぞれ微増した。また、例年の傾向ではあるが、男子より女子のほうが海外経験値は高い。



海外経験 (%)

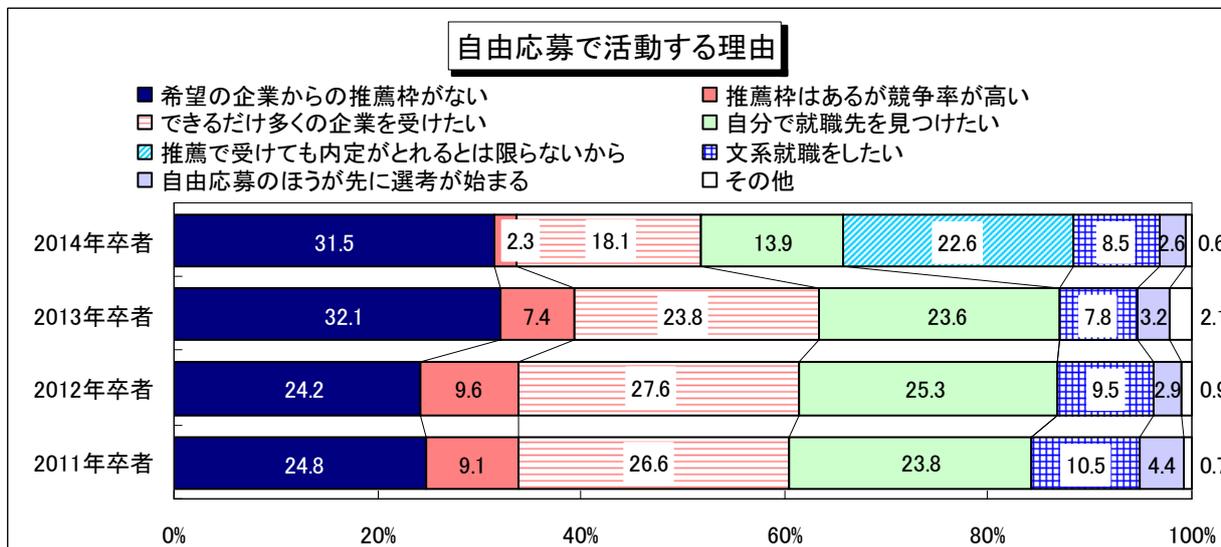
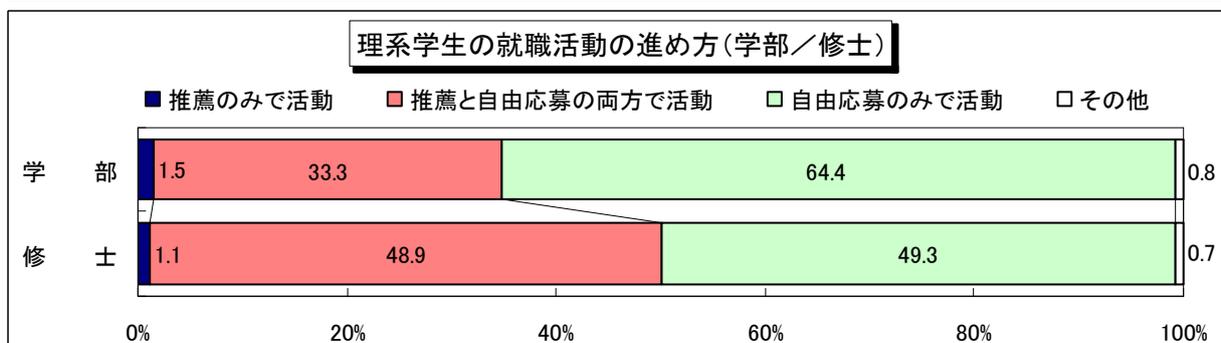
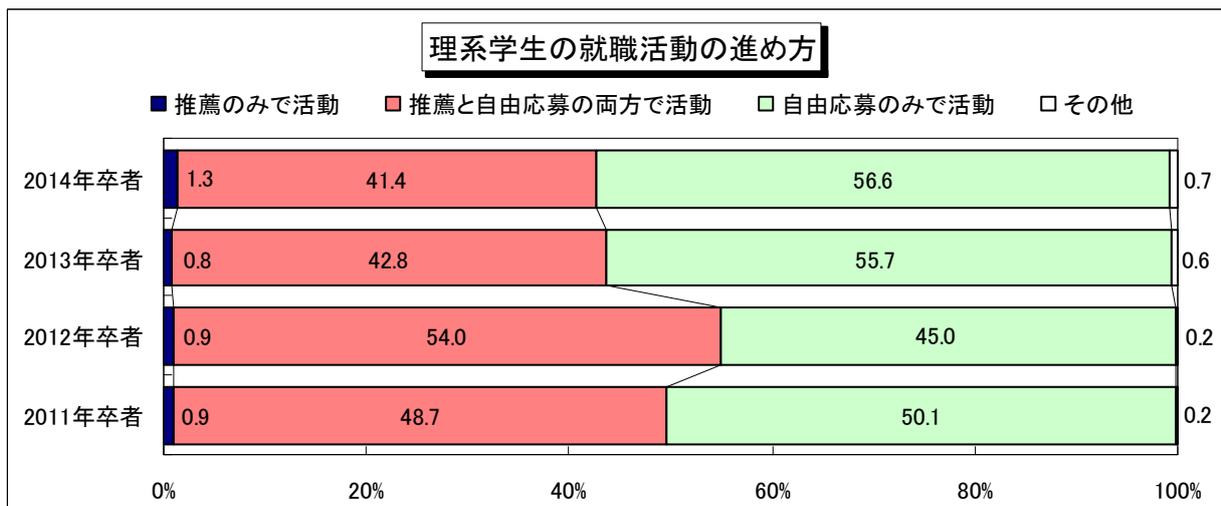
	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
海外旅行	50.3	47.9	47.3	57.1	45.0	55.4
語学研修	19.0	15.9	16.6	30.9	9.8	18.7
その他海外研修(学術目的のもの)	8.0	5.2	5.5	9.5	8.8	10.2
交換留学	3.0	2.7	2.4	5.2	2.6	0.6
長期滞在生活(帰国子女など)	2.5	2.9	3.6	4.0	0.5	0.6
正規留学	1.9	1.5	1.2	4.7	0.3	0.6
その他	0.9	0.2	1.2	0.5	0.8	1.2
海外に行ったことはない	39.1	41.7	42.0	30.7	45.7	34.9

6. 理系学生の就職意識

理系学生に対し、就職活動の進め方を聞いた。前年度調査では「自由応募のみで活動」が大きく増え、55.7%と過半数を占めたが、今年も56.6%と同様の傾向を示した。

併願を含め自由応募で活動すると回答した人に理由を聞いたところ、「希望の企業からの推薦枠がない」が31.5%で今年も最多だった。今年から選択肢に「推薦で受けても内定が取れるとは限らないから」を加えたところ22.6%が選び、その分「できるだけ多くの企業を受けたい」と「自分で就職先を見つけたい」が減った。推薦制度の「不確かさ」に対する学生の本音が垣間見える結果となった。

なお、学部生に比べ企業からの推薦依頼の多い修士学生では、推薦利用予定者は50.0%に上っている。

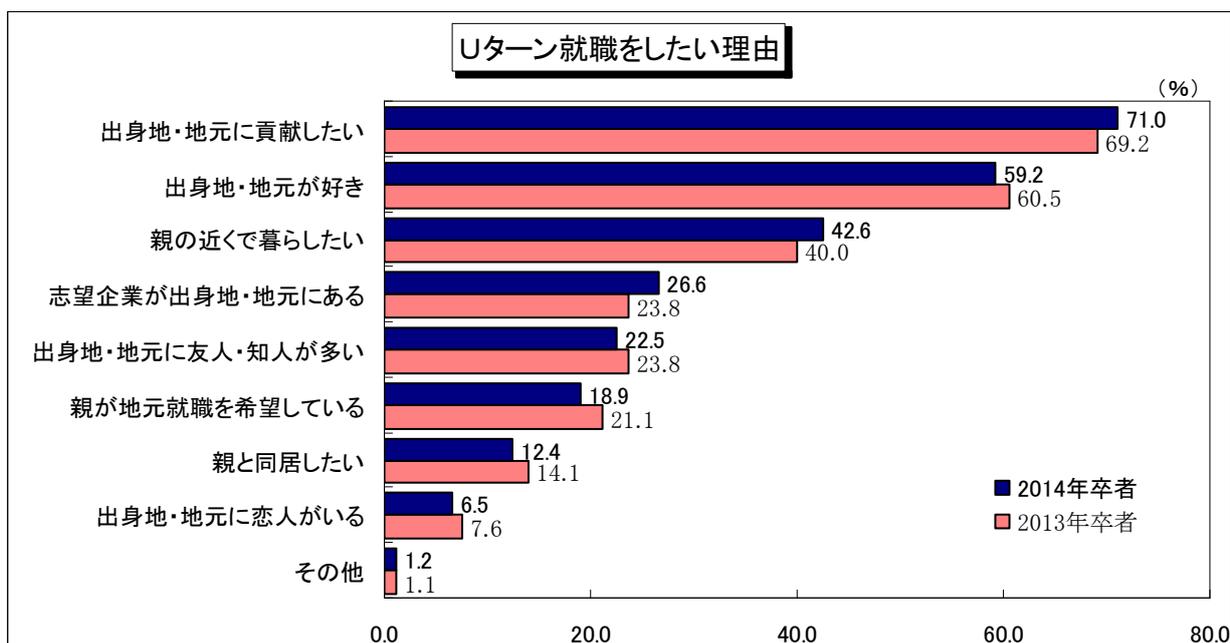
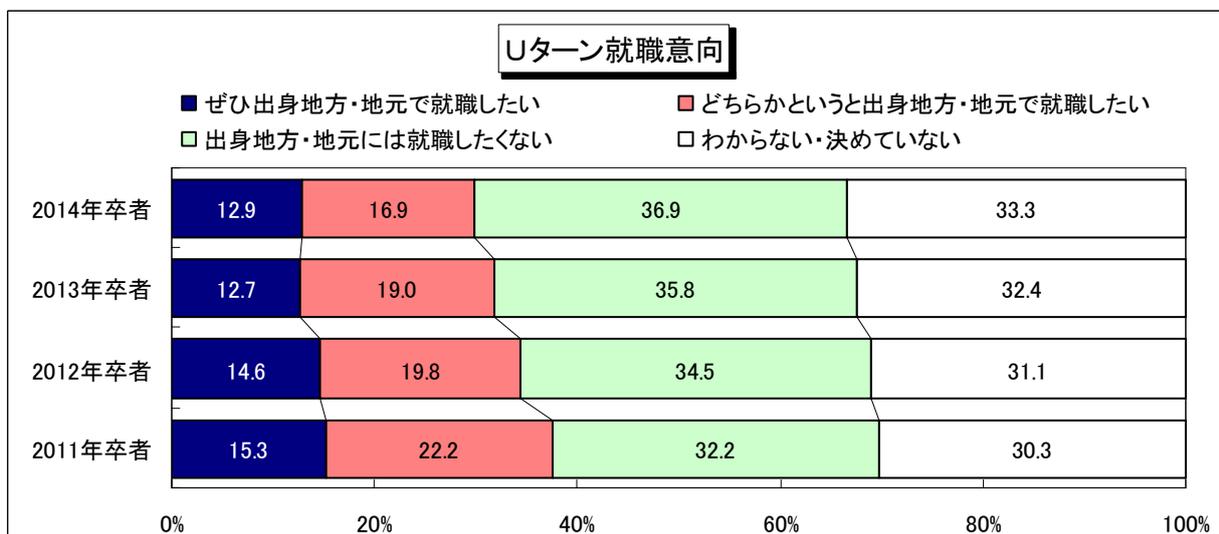


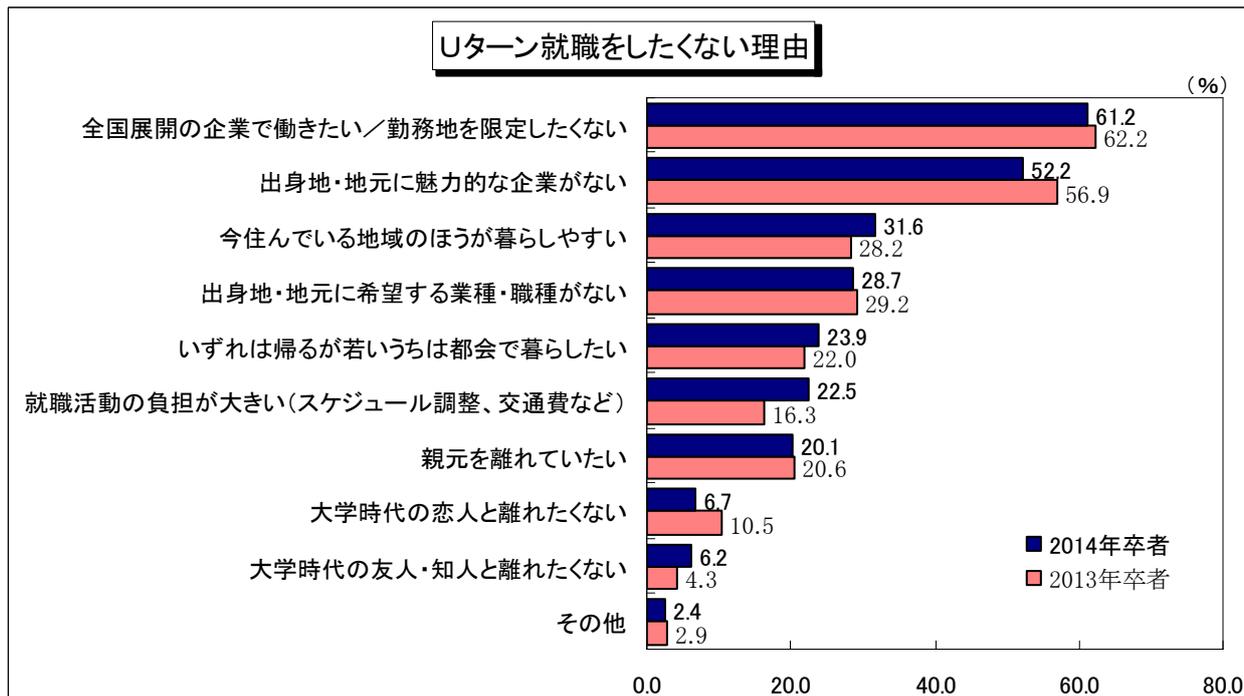
7. Uターン就職希望状況

出身地・地元を離れて進学している学生を対象に、Uターン就職の希望状況を聞いた。「ぜひ出身地・地元で就職したい」12.9%と「どちらかというとなり出身地・地元で就職したい」16.9%を合計すると29.8%で、対象となる学生の3割未満にとどまる。Uターン就職希望者はここ数年減少傾向にあり、今年もその傾向が進んだ。

Uターン就職をしたいという人の理由を見ると、「出身地・地元へ貢献したい」が71.0%で最も多い。この項目は、以前は2位ないし3位だったが、東日本大震災の影響から昨年調査から1位となっている。

一方で、Uターン就職をしたくないという人に理由を聞くと（グラフは次ページ）、「全国展開の企業で働きたい／勤務地を限定したくない」が61.2%で最も多い。自分の働き方に合わないとの考えが依然主流だ。その中で「就職活動の負担が大きい」のポイントが前年の16.3%から22.5%へと大きく増えているのが気になる。Uターン就活は長距離の移動や宿泊を伴うため学業との両立が難しい面があるが、就職活動期間の短縮でUターン就活のハードルはさらに上がったようだ。





■就職活動に関して思うこと

○2月になってエントリーシートの締め切りがスケジュール帳で目立つようになりました。とりあえず、春休みに入るということで対処できますが、普通に講義がたくさんあったら大変だったとぞっとします。

<文系男子>

○次第に周りの学生の就職活動に対する姿勢も積極的になってきたように思う。

<理系男子>

○本当に自分の行きたい企業の内定は、努力すればとれるものなのか。またそんなに興味のない企業を中途半端な気持ちでたくさんの数を受けて、実際に受かるのだろうか。

<文系女子>

○せめて大学の試験期間中は自社説明会などを自粛して欲しい。「試験でお忙しい中、お越しくさってありがとうございます」と分かっているなら尚更、と感じる。

<文系男子>

○企業にとってプラスの話ばかりが飛び交っているので、マイナス面が見えにくい。かといってネットの情報に頼るのもどうかと思うので自分で確かめたいと思うが、説明会などでそこまで見破るのは難しい。

<文系男子>

○多くの会社をみたいが、選考開始の4月まで時間が足りない。

<理系男子>

○まだ選考結果があまり出ていないのでなんとも言えません。思ったよりスケジュールが厳しいです。

<理系女子>

○どうすれば面接を通れるのかがさっぱり分からない。こいつなら通るだろうと思えるほどすごい人の面接を一度見てみたい。

<文系女子>

○最近応募書類を提出し、企業から追って連絡しますと書いてあるのですが、いつまで待てばいいのかわからず歯がゆいです。

<理系女子>

○大学院での研究生生活が多忙を極めているため、就職活動に時間を割くことが難しいと感じます。研究室によっては学生が暇そうなどころもあるため、自身が就職活動において不利だと感じることは多々ありますが、負けずに両立を図ろうと奮起しています。

<理系男子>

○新卒として優遇された状態で選考を受けたり企業の説明会に出席できたりするのは今しかないと思うので、短い間ですが楽しんでやりたいと思います。

<文系女子>

○自分の就活が進んでいるのか止まっているのかわからないが、進むしかない。

<文系男子>